

国語 第1学年 ふたとぶた

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。東京書籍「新編 新しい国語（令和6年度版）」の単元一覧にある5月の学習。教材名と配当は公式資料による。教科書の本文・台詞・挿絵・固有の問題は転載していない。

この単元で子どもが最後にできるようになること

授業では「点が付くと音と意味はどう変わるか」を問い、清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く。清音と濁音の対応カードの初めと終わりを比べ、判断や表現が変わった理由を確かめる。知識・技能は、説明を聞いたかだけで判断せず、活動中に使った言葉や方法を見取る。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)イ	イ 音節と文字との関係、アクセントによる語の意味の違いなどに気付くとともに、姿勢や口形、発声や発音に注意して話すこと。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(1)ウ	ウ 長音、拗《よう》音、促音、撥《はつ》音などの表記、助詞の「は」、「へ」及び「を」の使い方、句読点の打ち方、かぎ（「」）の使い方を理解して文や文章の中で使うこと。また、平仮名及び片仮名を読み、書くとともに、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
〔第1学年及び第2学年〕B 書くこと(1)エ	エ 文章を読み返す習慣を付けるとともに、間違いを正したり、語と語や文と文との続き方を確かめたりすること。

単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話す。本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使う。思考・判断・表現では、清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く。交流や試行の前後を比べ、清音と濁音の対応カードを見直そうとする。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。本時に扱う仮名や助詞の表記を確かめ、語や文の中で使っている。〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)ウ	①「書くこと」において、学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確かめて直している。 (B(1)エ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

単元の流れ

総時数は東京書籍公式の一学期単元一覧による。各時の活動配分と本時の位置は本案の提案である。学校の実態に合わせて調整する。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1 （本時）	○清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く。 ○点が付くと音と意味はどう変わるかを考え、最初の答えとその理由を残す。	知①・思①（発言・学習記録）
第2次	2	○友達の説明と比べ、清音と濁音の対応カードを見直す。 ○別の語句や場面でも今回の考え方を使い、直した理由を伝える。	思①・態①（見直しの記録）



本時の案

本時の目標：清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書くとともに、カードに書いた語句や説明を読み直して修正できる。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 身近な経験と既習の言葉を確認、今日使う教材や資料を準備する。 ○「点が付くと音と意味はどう変わるか」 【めあて】濁音による音と意味の違いについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・点のあるなしで違う物の名前になる。 ・どこを確認すれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。濁点を飾りと考えて落とす姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 清音と濁音の言葉を声に出して比べ、絵に合う表記を選んで書く。 3 書いたものを読み返し、「点が付くと音と意味はどう変わるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確認める。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 ○学習した語や説明をカードに書き、見本や資料と照らして表記・言い方を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・点のあるなしで違う物の名前になる。 ・友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	対応する絵と言葉を並べ、声と表記を結び付ける。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確認め、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。本時に扱う仮名や助詞の表記を確認め、語や文の中で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確認めて直している。(B(1)エ) (学習カードの修正前後)
まとめ (分)	5 清音と濁音の対応カードを確認め、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】文字は、形や使い方を見本と比べ、どの部分を確認めるかを決めて練習する。 6 最初から変えた点、理由を確認めて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。点が付くと音と意味はどう変わるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知①（清音と濁音の対応カードと実際の言葉の使用）・態①（単元を通した試行や見直し）

板書の構造（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には濁音による音と意味の違いを確認める語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に清音と濁音の対応カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

つまずきやすい所と手当て

予想する難しさは、濁点を飾りと考えて落とすことである。対応する絵と言葉を並べ、声と表記を結び付ける。読字や筆記の負担と、言葉について考える課題を区別する。読み上げや教師による記録を使っても、考える内容は保つ。

プリントの案

清音と濁音の対応カード

「点が付くと音と意味はどう変わるか」を考えるため、対象の言葉や資料、最初の考え、確かめた根拠、交流や試行後の変更を記録する。対応する絵と言葉を並べ、声と表記を結び付けるための補助欄も用意する。

見直しの理由を記すカード

初めの記録と見直した記録を並べ、変更した理由や、確かめた上で残した点を書く。書く負担が大きい場合は、本人の説明を教師が記録する。

出典：教材名・月・配当時数：東京書籍 令和6年度版 国語 単元一覧（一学期の原本表を確認）(https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/data/kokugo_tangen_1_202503.docx)／東京書籍 国語 年間指導計画の公式入口 (<https://ten.tokyo-shoseki.co.jp/text/shou/kokugo/keikaku/>)／文部科学省 小学校学習指導要領解説 国語編 (https://www.mext.go.jp/content/20220606-mxt_kyoiku02-100002607_002.pdf)／国立教育政策研究所 指導と評価の一体化 小学校国語（評価規準の形式）(https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf)
AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重